

平成 年 月 日

御中

有限会社 アダチ技研

### 難燃合板（AF - 550）の製品安全性について

『難燃合板 アダチフネンAF - 550』は難燃材料として国土交通大臣認定RM - 9340及び規制対象外のホルムアルデヒド発散建築材料：Fとして国土交通大臣認定MFN - 0548として認められており、その成分は防火処理の概要に記載の通り、リン酸塩系の難燃薬剤、アミノ樹脂系難燃性接着剤、木質単板となっており、これらの難燃薬剤の主成分であるリン酸二アンモニウム、ポリリン酸アンモニウムアミド、とアミノ樹脂接着剤であるメラミン・ユリア・ホルムアルデヒド重縮合樹脂接着剤の製品安全データシート及び難燃合板のホルムアルデヒド放散量の測定結果は下記の参考資料の通りです。その他の揮発性有機化合物（VOC）（厚生労働省の個別物質室内濃度指針値に示す物質）は含まれておりません。

### 記

#### 参考資料

1. 国土交通大臣認定 難燃処理合板の認定書(RM - 9340)  
難燃処理合板の防火処理の概要
2. 難燃合板 アダチフネンAF - 550の成分表
3. 製品安全データシート
  1. リン酸二アンモニウム
  2. ポリリン酸アンモニウムアミド
  3. メラミン・ユリア・ホルムアルデヒド重縮合物
4. 国土交通大臣認定 規制対象外のホルムアルデヒド発散建築材料  
：F 適合品の認定書(MFN - 0548)  
ホルムアルデヒド放散量試験結果
5. 厚生労働省の個別物質室内濃度指針値における揮発性有機化合物  
(VOC)

以上

参考資料- 1

国土交通大臣認定 ( R M - 9 3 4 0 )

難燃処理合板の防火処理の概要

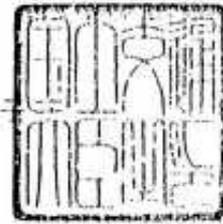


## 認 定 書

国住指第3334号  
平成14年3月15日

日本合板工業組合連合会  
会長 又賀航一 様

国土交通大臣 林 寛



下記の構造方法又は建築材料については、建築基準法第68条の26第1項（同法88条第1項において準用する場合を含む。）の規定に基づき、同法施行令第1条第六号（難燃材料）の規定に適合するものであることを認める。

### 記

1. 認定番号  
RM-9340
2. 認定をした構造方法又は建築材料の名称  
難燃処理合板
3. 認定をした構造方法又は建築材料の内容  
別添の通り

## 防火材料説明図

認定番号	RM-9340
認定年月日	平成14年3月15日
品目名	難燃処理合板
申請者	日本合板工業組合連合会 〒105-0001 東京都港区虎ノ門1-17-3 (虎ノ門12森ビル) TEL 03(3591)9246 FAX 03(3591)9240
主たる用途	建築物の内装(壁、天井、間仕切)
試験機関	建設省建築研究所
試験機関受託番号	建研 45-7-16、建研 51-25、建研 52-1
製品の形状寸法	形状 : 平板 表面形状 : 平滑 厚さ(mm) : 5.5(±0.3)以上 大きさ(mm) : 910×1820、610×2430、910×2430、1220×1820、1220×2430 比重 : 0.55~0.77 重量(kg/m <sup>2</sup> ) : 3.5~4.2 含水率(%) : 14以下
防火処理の概要	昭和44年農林省告示第1869号(昭和52年農林省告示第319号にて一部改正)に規定する「難燃合板の日本農林規格」に合格する難燃合板のうち厚さが5.5mm以上のもので、次に掲げる方法で難燃処理したもの。 (1) 単板をりん酸塩系の難燃薬剤で合板1m <sup>2</sup> あたり320g(固型量)以上含浸するよう処理したもの。 (2) 表裏板と心板との接着は、アミノ樹脂系難燃性接着剤を使用し、接着面積1m <sup>2</sup> あたり360g(難燃剤固型量110g)以上塗布し熱圧着するものとする。
構成(組成)・断面図	表面化粧: なし 接着剤: アミノ樹脂系難燃接着剤 表板・裏板: 厚さ0.75~1.1(±0.1mm) 心板: 厚さ4.0~3.3(±0.1mm) その他: なし  <div style="text-align: center;"> <p>断面図</p> <p>断面図</p> <p>表板厚さ 0.75~1.1 心板厚さ 4.0~3.3 裏板厚さ 0.75~1.1</p> </div>

## 難燃合板・アダチフネンAF - 550

### 成分表

成分		組成 (重量%) (製品厚み5.5mm)
木質	シナ・ラワン単板	76.0
リン酸塩系難燃薬剤	(難燃薬剤) リン酸二水素アンモン	9.6
アミノ樹脂系難燃性接着剤	(接着剤) メラミン・ユリア・ ホルムアルデヒド重縮合物  (難燃薬剤) ポリリン酸アンモニウム アミド	7.0
水	含水率	14以下

参考資料- 3

## 製品安全データシート

## 製品安全データシート

会社名 太平化学産業(株)奈良工場  
住 所 奈良県生駒郡斑鳩町高安1-1  
担当者 品質管理課 吉川正彦

緊急連絡先 Tel. 07457-4-2281  
Fax. 07457-4-5438

作 成 平成 5 年 月 日

整理番号 015

製 品 名	工業用 リン酸二アンモニウム
物質の特定	<p>単一品・混合品の区別：単一品</p> <p>化学名：オルトリン酸水素二アンモニウム</p> <p>成分及び含有量： 95.0%以上</p> <p>化学式又は構造式：(NH<sub>4</sub>)<sub>2</sub>HPO<sub>4</sub></p> <p>官報公示整理番号：化審法 1-379 安衛法 該当しません。</p> <p>CAS No： 7783-28-0 国連分類及び国連番号： 該当しません。</p>
危険有害性の分類	<p>分類の名称：日本化学工業協会の分類基準に該当しません。</p> <p>危険性：不燃性です。</p> <p>有害性：特に注目すべき情報はありません。</p> <p>環境影響：廃棄する場合はリン、窒素、pHに注意して下さい。</p>
応 急 措 置	<p>目に入った場合：流水で充分洗浄後、違和感が残る様な時は専門医の診察を受けて下さい。</p> <p>皮膚に付着した場合：流水で洗い流し、違和感が残る様な時は専門医の診察を受けて下さい。</p> <p>吸入した場合：新鮮な空気の所へ移し、激しく咳込んだり、呼吸困難な状態の時は酸素吸入を行いながら、直ちに専門医の診察を受けて下さい。</p> <p>飲み込んだ場合：少量では問題ありません。多量の場合はコップ5～6杯程度の水を与えた後、吐き出させ直ちに専門医の診察を受けて下さい。</p>
火災時の措置	<p>消火方法：本品は不燃性です。</p> <p>包材等燃焼の可能性がある時、移動可能な場合は速やかに安全な場所に移動させる。移動不可能な場合は、容器等を破損しないように注水し、冷却して下さい。</p> <p>消火活動は保護衣、ゴム長靴、ゴム手袋、呼吸保護具等を着用し、可能な限り飛散させないように風上から消火活動にあたる。</p> <p>消火剤：水、一般的消化剤</p>

漏出時の措置	<p>集めて袋に収納後、産業廃棄物として処理して下さい。          または水に溶かして規定の排水処理を行って下さい。この際リン、窒素、pHに注意が必要です。          作業時は保護衣、ゴム長靴、ゴム手袋等の保護具を着用して下さい。</p>
取扱い及び保管上の注意	<p>取扱い：溶液は弱アルカリ性です。          皮膚や粘膜に触れたり、眼に入らないようにして下さい。</p> <p>保管：高温、多湿は避けて密封保管して下さい。          開封後は速やかにご使用下さい。</p>
暴露防止措置	<p>管理濃度： 該当しません。</p> <p>許容濃度 日本産業衛生学会(1991年度版):該当しません。          A C G I H*(1989年度版):該当しません。</p> <p>設備対策： 出来るだけ密閉された設備、局所排気装置</p> <p>保護具 呼吸用保護具：着用が望ましい。          保護眼鏡：着用が望ましい。          保護手袋：着用が望ましい。          保護衣：着用が望ましい。</p>
物質及び化学的性質	<p>外観等：白色結晶</p> <p>沸点： NA ℃ 蒸気圧： NA Pa( ℃) 揮発性： NA</p> <p>融点： NA ℃ 比重又は高比重： 1.610 ( ℃)</p> <p>初留点： NA ℃</p> <p>溶解度 水： 131g/100g ( 15℃) NA:NOT APPLICABLE(適用できない)</p>
危険性情報	<p>引火点： NA ℃ 発火点： NA ℃</p> <p>爆発限界 上限： NA % 下限： NA %</p> <p>可燃性：本品は不燃性です。</p> <p>融火性(自然発火性、水との反応性)： 融火性はありません。</p> <p>酸化性： 酸化性はありません。</p> <p>自己反応性・爆発性： 自己反応性・爆発性はありません。</p> <p>粉じん爆発性： 粉じん爆発性はありません。</p> <p>安定性・反応性：本品は155℃で分解し始め、216℃以上でメタリン酸アンモニウムになります。開放状態では熱分解する際に、アンモニアを発生します。          又、強酸化剤、強酸、強塩基、及びマグネシウムとの混触でも分解し、アンモニアが発生します。</p>

有害性情報	<p>皮膚腐食性： 皮膚腐食性はありません。</p> <p>刺激性（皮膚、眼）  目刺激：ダストは目に刺激があります。  皮膚刺激：長期の皮膚接触は刺激を起こす可能性があります。</p> <p>感作性： 感作性はありません。</p> <p>急性毒性（50%致死量を含む）：  経口 ラット LD50 6,500mg/kg (RTECS*)  経皮 ラビット LD50 &gt; 7,940mg/kg (RTECS*)</p> <p>亜急性毒性：特に注目すべき情報はありません。</p> <p>慢性毒性：特に注目すべき情報はありません。</p> <p>がん原性：特に注目すべき情報はありません。</p> <p>変異原性（微生物、染色体異常）：特に注目すべき情報はありません。</p> <p>生殖毒性：特に注目すべき情報はありません。</p> <p>催奇形性：特に注目すべき情報はありません。</p> <p>その他（水と反応して有害なガスを発生する等を含む）：特に注目すべき情報は  ありません。</p>
環境影響情報	<p>分解性：加水分解します。</p> <p>蓄積性：蓄積性はありません。</p> <p>魚毒性：魚毒性はありません。</p> <p>その他：リンや窒素は湖沼・海域の富栄養化の原因となります。</p>
廃棄上の注意	<p>漏出時の措置等に準じて行って下さい。</p>
輸送上の注意	<p>取扱い及び保管上の注意等に準じて下さい。  運搬に際しては落下、破袋等がないように積込み、荷崩れの防止に注意して下さい。</p>
適用法令	<p>本品は食品衛生法（食品添加物）を参考にして規格を設定してあります。</p> <p>本規格以外に試薬特級 JIS K 9016(1981)、一級 JIS K 9016(1961)、食品添加物用があります。</p>
その他	<p>ACGIH : American Conference of Government Industrial Hygienists  RTECS : Registry of Toxic Effects of Chemical Substances</p>

## 製品安全データシート

会社名 太平化学産業(株)春日井工場  
 住所 愛知県春日井市坂下町6丁目760番地  
 担当者 品質管理課 加藤 充一  
 緊急連絡先 Tel.番号 0568-88-0031  
 Fax 番号 0568-88-2921

作成 1998年 8月20日  
 改訂 1999年 4月 1日

整理番号 : 631

製品名	タイエン S
物質の特定	単一品・混合品の区別 : 単一品  化学名 : ポリリン酸アンモニウムアミド 含有量 : 100% 化学式 : _____  官報公示整理番号 : 化審法 1-683 , 安衛法 該当しません。  CAS No. : 92079-37-3 EINECS No. :  国連分類及び国連番号 : 該当しません。
危険・有害性の分類	分類の名称 : 日本化学工業協会の分類基準には該当しません。  危険性 : 不燃性です。  有害性 : 特に注目すべき情報はありません。  環境影響 : 廃棄する場合は、リンに注意してください。
応急措置	目に入った場合 : 流水で充分洗浄後、違和感が残る様な時は専門医の診察を受けて下さい。  皮膚に付いた場合 : 流水で洗い流して下さい。  吸引した場合 : 新鮮な空気の所に移して下さい。激しく咳込んだり呼吸困難な状態の時は、酸素吸入を行いながら直ちに専門医の診察を受けて下さい。  飲み込んだ場合 : 少量では問題ありません。コップ2杯程度の水を与えた後吐き出させて下さい。吐き出せない場合や違和感が残る場合は専門医の診察を受けて下さい。
火災時の措置	消火方法 : 本品は不燃性です。 包材等燃焼の可能性がある時は、移動可能な場合は速やかに安全な場所に移して下さい。移動不可能な場合は容器等を破損しないように注水し冷却して下さい。 消火作業は保護具(保護衣, ゴム長靴, ゴム手袋, 呼吸保護具等)を着用し可能な限り飛散させないように風上から消火作業して下さい。  消火剤 : 水, 一般的消火剤。

整理番号 : 631	
漏出時の措置	集めて袋に収納後、産業廃棄物として処理して下さい。 作業時は保護具（保護衣、ゴム長靴、ゴム手袋等）を着用して行って下さい。
取扱い及び保管上の注意	取扱い： 微粉末であるので、発じんする場所での作業にはマスクを着用して下さい。 保管： 湿度の高い所を避けて密封保存して下さい。
暴露防止措置	管理濃度： 該当しません。 許容濃度： 日本産業衛生学会（1997年度）…勧告値 第三種粉塵（無機の粉塵） 吸入性粉塵 2mg/m <sup>3</sup> 総粉塵 8mg/m <sup>3</sup> ACGIH (1995年) …… 設定されていません。 設備対策： 換気、局所排気、防塵設備 保護具： 呼吸用保護具： 着用して下さい。 保護眼鏡： 着用して下さい。 保護手袋： 着用して下さい。 保護衣： 着用して下さい。
物理/化学的性質	外 観 等 : 白色粉末。 無臭。 融点および沸点 : (データなし) 比 重 : (データなし) 揮発性：(適用外) 蒸気圧：(適用外) 溶解度 水 : ほとんど溶けません。 , その他：
危険性情報 (安定性及び反応性)	可燃性： 本品は不燃性です。 融火性（自然発火性、水との反応性）： ありません。 引火点：(適用外) 発火点：(適用外) 自己反応性・爆発性： ありません。 爆発限界 上限：(適用外) , 下限：(適用外) 粉じん爆発性： ありません。 酸化性・還元性： ありません。 その他の安定性・反応性情報 : 特に注目すべき情報はありません。

整理番号 : 631	
有害性情報 (毒性情報)	<p>皮膚腐食性： 特に注目すべき情報はありません。</p> <p>刺激性（皮膚，眼）： 眼刺激： 特に注目すべき情報はありません。 皮膚刺激： 特に注目すべき情報はありません。</p> <p>感作性： 特に注目すべき情報はありません。</p> <p>急性毒性： 特に注目すべき情報はありません。</p> <p>亜急性毒性： 特に注目すべき情報はありません。</p> <p>慢性毒性： 特に注意すべき情報はありません。</p> <p>がん原性： 特に注目すべき情報はありません。</p> <p>変異原性： 特に注目すべき情報はありません。</p> <p>生殖毒性： 特に注目すべき情報はありません。</p> <p>催奇形性： 特に注目すべき情報はありません。</p> <p>その他： 特に注目すべき情報はありません。</p>
環境影響情報	<p>分解性： 特に注目すべき情報はありません。</p> <p>蓄積性： 特に注目すべき情報はありません。</p> <p>魚毒性： 特に注目すべき情報はありません。</p> <p>その他： 燐は窒素とともに湖沼、海域の富栄養化の原因とされています。</p>
廃棄上の注意	漏出時の措置等に準じて行ってください。
輸送上の注意	<p>取り扱い及び保管上の注意等に準じて下さい。</p> <p>運搬に際しては、落下、破損等がないように積み込み、荷崩れ等に注意して下さい。</p>
適用法令	
その他	危険・有害性、物理化学的性質などの情報は必ずしも充分でないので、取り扱いには十分に注意して下さい。

## 製品安全データシート

## 製造者情報

会社 大鹿振興株式会社  
 住所 東京都板橋区板橋4-13-1  
 担当部門 化成品事業部  
 TEL.03-3964-4055 FAX.03-3964-4085  
 緊急連絡先 中央研究所  
 TEL.03-3966-5125 FAX.03-3558-3083

整理番号 102620

作成 平成6年7月1日

製品名 大鹿レチン PWP-513

## 物質の特定

化学名	ホルムアルデヒド重縮合物	メタノール	ホルムアルデヒド	水
含有量	50~60%	5~10%	1%以下	45~29%
化学式	-	CH <sub>3</sub> OH	HCHO	H <sub>2</sub> O
化審法番号	7-591	2-201	2-482	-
CAS. No.	25036-13-9	67-56-1	50-00-0	-
国連分類	該当なし（国連の定義上危険物に該当しない）			
国連番号	該当なし			

## 危険有害性の分類

分類の名称：急性毒性

危険性：指定可燃物（消防法；水溶液であるため火気による危険性は少ない）

有害性：有機則第2種有機溶剤

（接着剤に少量含まれるホルムアルデヒド、メタノールは有害である。

ホルムアルデヒドは2~3ppmで鼻、目に軽い刺激。4~5ppmで不快感を覚える。）

環境影響：分解性は良好であるが、少量のホルムアルデヒドは魚類及び水生生物に対し有害である。

整理番号 102620

---

 応急措置

眼に入った場合 : 直ちに多量の水で15分以上洗眼し、必要に応じ眼科の診療を受ける。

皮膚に付着した場合 : 水で洗い流す。

飲み込んだ場合 : 多量の水又は食塩水を飲ませ、吐かせ、必要に応じ医師の診療を受ける。

---

## 火災時の措置

消火方法 : 指定可燃物ではあるが、燃焼持続性はない。消火に際しては、消火剤を用いる。

消火剤 : 水、粉末、炭酸ガス、等が有効である。

---

## 漏出時の措置

・少量の場合 : 土砂、オガ屑等で吸着させ空容器に回収し、液が河川等に排出されないように注意する。

・多量の場合 : 漏洩した液は土のう等でその流れを止め、土砂、オガ屑等で表面を覆い十分吸着させて空容器に回収し、液が河川等に排出されないように注意する。

---

## 取扱及び保管上の注意

取扱 : 眼、皮膚に付けないように適切な保護具を着用する。

揮発するホルムアルデヒド、メタノールを許容濃度（暴露防止措置の欄参照）以下に保つ。

必要に応じ、局所排気装置を設置する。

保管 : 河川に排出されないように注意する。液漏れのない容器、又はタンクに貯蔵する。

---

## 暴露防止措置

管理濃度 : ホルムアルデヒド 現在なし

メタノール 200 ppm

許容濃度 : 日本産業衛生学会 ホルムアルデヒド C 0.5 ppm (0.6mg/m<sup>3</sup>)

(1992) メタノール 200 ppm (皮) (260mg/m<sup>3</sup>)

ACGIH ホルムアルデヒド (TLV-TWA) C 0.3 ppm (0.37mg/m<sup>3</sup>)

(1992~1993) メタノール (TLV-TWA) 200 ppm (皮) (262mg/m<sup>3</sup>)

OSHA ホルムアルデヒド (PEL-TWA) 0.75 ppm (0.9mg/m<sup>3</sup>)

(1992)

(注) C ; 上限値 (皮) ; 経皮吸収

設備対策 : 局所排気装置を設置

取扱場所の近くに安全シャワー、手洗い洗眼設備を設け、その位置を明瞭に表示する。

保護具 : 呼吸用保護具 ; 掃除等でタンク内部に入る場合 - 防毒マスク (有機ガス用)

送気マスク

保護メガネ ; 普通眼鏡型、側板付き普通眼鏡型、ゴーグル型

保護手袋 ; ゴム手袋

整理番号 102620

## 物理/化学的性質

外観等：乳白色液体

沸点：89～95℃

比重：1.200～1.250

溶解度 水：易溶

〔但し、本品を水（20℃）で5～20倍以上に希釈すると、ごく一部不溶解物を析出〕

## 危険情報

引火点：66～98℃

可燃性：非指定可燃物

発火性（自然発火、水との反応）：なし

酸化性：なし

自己反応性・爆発性：なし

安定性・反応性：安定

## 有害性情報（接着剤に少量含まれるホルムアルデヒド、及びメタノールに関する情報）

刺激性：ホルムアルデヒドは2～3ppmで鼻、のどに軽い刺激、4～5ppmで不快感を覚える。<sup>1)</sup>

急性毒性：ホルムアルデヒド；	経口ヒト	：	LD <sub>50</sub>	：	643mg/kg <sup>2)</sup>	
	吸入ヒト	：	TCLO	：	17mg/m <sup>3</sup> /30min <sup>2)</sup>	
	経口ラット	：	LD <sub>50</sub>	：	100mg/kg <sup>2)</sup>	
	吸入ラット	：	LC <sub>50</sub>	：	203mg/m <sup>3</sup> <sup>2)</sup>	
メタノール	；	経口ヒト	：	LD <sub>50</sub>	：	3429mg/kg <sup>2)</sup>
		吸入ヒト	：	TCLO	：	300ppm <sup>2)</sup>
		経口ラット	：	LD <sub>50</sub>	：	5828mg/kg <sup>2)</sup>
		吸入ラット	：	LC <sub>50</sub>	：	64000ppm <sup>2)</sup>

がん原性：ホルムアルデヒド；

日本産業衛生学会：第2群 A（人に対して恐らく発がん性がある）

## 環境影響情報（接着剤に少量含まれるホルムアルデヒド、メタノールに関する情報）

魚毒性：ホルムアルデヒド	コイ	TLm (3hr)	65ppm <sup>3)</sup>
	ミジンコ	TLm (48hr)	28ppm <sup>4)</sup>
メタノール	マス	TLm (48hr)	8000mg/l <sup>5)</sup>
	ウグイ	LD <sub>100</sub>	17000mg/1・24時間 <sup>5)</sup>

## 廃棄上の注意

廃棄は焼却により行う。

整理番号 102620

---

輸送上の注意

運搬に際しては容器に漏れないことを確かめ、転倒、落下、損傷がないように積み込み、荷崩れ防止を確実に行う。

---

主な適用法規

- 安衛法：表示物質（令 第30条 36号 メタ：5%<）  
第2種有機溶剤（有機則 第1条1項4号 メタ：5%<）  
消防法：指定可燃物  
毒劇物：該当せず  
危険物船舶運送及び貯蔵規則：該当せず
- 

その他、文献

- 1) 産業中毒便覧 後藤 稔也 編 医歯薬出版(株) (1977)
- 2) REGISTRY OF TOXIC EFFECTS OF CHEMICAL SUBSTANCES : NIOSH (1985~86年版)
- 3) FOOD CHEM TOXICOL 1989 ; 27 ; 545-548  
SAILLENFAIT AM : THE EFFECTS OF MATERNALLY INHALED FORMALDEHYDE  
ON EMBRYONAL AND FOETAL DEVELOPMENT IN RATS.
- 4) 水性生物と農薬 急性毒性資料編 田中二良 (株)サイエンティスト社 (1978)
- 5) K.VERSCHUEREN : HANDBOOK OF ENVIRONMENTAL DATA ON ORGANIC CHEMICALS (1983)

国土交通大臣認定書 ( M F N - 0 5 4 8 )

規制対象外のホルムアルデヒド発散

建築材料 : F 適合品

ホルムアルデヒド放散量試験結果



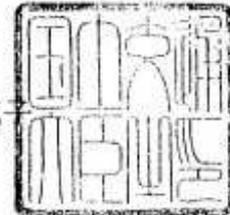
# 認 定 書

国住指第1120号  
平成15年7月2日

有限会社アダチ技研

代表取締役社長 齋藤チエ 様

国土交通大臣 林 寛子



下記の構造方法又は建築材料については、建築基準法第68条の26第1項（同法第88条第1項において準用する場合を含む。）の規定に基づき、同法施行令第20条の5第4項（規制対象外のホルムアルデヒド発散建築材料：F☆☆☆☆）の規定に適合するものであることを認める。

## 記

### 1. 認定番号

MFN - 0548

### 2. 認定をした構造方法又は建築材料の名称

難燃処理合板

### 3. 認定をした構造方法又は建築材料の内容

別添の通り

## 別紙1 評価結果

### 1. 試験片の選定と選定理由

申請された建築材料は、表1に示すように5種類の厚さがあるが、18.0mmを評価用の試験片に選定した。選定の理由は、5.5mmについては別添資料1（（財）日本住宅・木材技術センターの試験成績書）により、ホルムアルデヒドの発散量を確認することが可能であると判断したためである。

表1 建築材料の厚さ、密度及び許容差

幅 (mm)	長さ (mm)	厚さ (mm)	許容差	密度 (g/cm <sup>3</sup> )	許容差
			(mm)		(g/cm <sup>3</sup> )
920 ~1230	1830 ~2440	5.5	±0.3	0.66	±0.11
		9.0	±0.4		
		12.0			
		15.0			
		18.0			

### 2. 試験片の作製条件

1) 建築材料の製造日

平成15年6月9日

2) 建築材料の製造場所

有限会社 アダチ技研 館林工場

3) 試験片の抜き取り日

平成15年6月10日

4) 試験片の作製場所

製造場所と同じ。

5) 試験片の保管及び養生方法

試験片は作製後直ちにポリエチレン袋で密封して保管した。

試験片は、20±1℃の温度条件下で24時間養生した。

### 3. 試験方法

試験方法は、当財団が定める「ホルムアルデヒド発散建築材料の性能評価業務方法書」に基づくガラスデシケーター法による。

### 4. 試験結果

試験結果は、表2に示す。

表2 試験結果

建築材料の厚さ	ホルムアルデヒド放散量 (mg/L)	備考
5.5mm	平均値：0.1以下 最大値：0.1以下	別紙2
18.0mm	平均値：0.1以下 最大値：0.1以下	別添資料1

5. 評価結果

評価結果は、表 2 の試験結果より、ガラスデシケーター法によるホルムアルデヒド発散量の平均値が 0.3mg/L 以下であり、かつ最大値が 0.4mg/L 以下であると判断した。

6. 申請者連絡先

〒343-0845

埼玉県越谷市南越谷 5-24-3

有限会社 アダチ技研

開発室

池田 康久

TEL 048-987-0181 FAX 048-987-0184

## 厚生労働省の個別物質室内濃度指針値

厚生労働省の個別物質室内濃度指針値

揮発性有機化合物(VOC)	毒性指標	室内濃度指針値	設定日
ホルムアルデヒド	ヒト吸入暴露における鼻咽頭粘膜への刺激	100 $\mu\text{g}/\text{m}^3$ (0.08ppm)	1997.6.13
トルエン	ヒト吸入暴露における神経行動機能及び生殖発生への影響	260 $\mu\text{g}/\text{m}^3$ (0.07ppm)	2000.6.26
キシレン	妊娠ラット吸入暴露における出生児の中樞神経系発達への影響	870 $\mu\text{g}/\text{m}^3$ (0.20ppm)	2000.6.26
パラジクロロベンゼン	ビーグル犬経口暴露における肝臓及び腎臓等への影響	240 $\mu\text{g}/\text{m}^3$ (0.04ppm)	2000.6.26
エチルベンゼン	マウス及びラット吸入暴露における肝臓及び腎臓への影響	3800 $\mu\text{g}/\text{m}^3$ (0.88ppm)	2000.12.15
スチレン	ラット吸入暴露における脳や肝臓への影響	220 $\mu\text{g}/\text{m}^3$ (0.05ppm)	2000.12.15
クロルピリホス	母ラット経口暴露における新生児の神経発達への影響及び新生児脳への形態学的影響	1 $\mu\text{g}/\text{m}^3$ (0.07ppb) 但し小児の場合は 0.1 $\mu\text{g}/\text{m}^3$ (0.007ppb)	2000.12.15
フタル酸ジ-n-ブチル	母ラット経口暴露における新生児の生殖器の構造異常等の影響	220 $\mu\text{g}/\text{m}^3$ (0.02ppm)	2000.12.15
テトラデカン	C8-C16 混合物のラット経口暴露における肝臓への影響	330 $\mu\text{g}/\text{m}^3$ (0.04ppm)	2001.7.5
フタル酸ジ-2-エチルヘキシル	ラット経口暴露における精巣への病理組織学的影響	120 $\mu\text{g}/\text{m}^3$ (7.6ppb)	2001.7.5
ダイアジノン	ラット吸入暴露における血漿及び赤血球コリンエステラーゼ活性への影響	0.29 $\mu\text{g}/\text{m}^3$ (0.02ppb)	2001.7.5
アセトアルデヒド	ラットの径気道暴露における鼻腔嗅覚上皮への影響	48 $\mu\text{g}/\text{m}^3$ (0.03ppm)	2002.1.22
フェノブカルブ	ラットの経口暴露におけるコリンエステラーゼ活性などへの影響	33 $\mu\text{g}/\text{m}^3$ (3.8ppb)	2002.1.22
揮発性有機化合物 (TVOC)	国内の室内 VOC 実態調査の結果から、合理的に達成可能な限り低い範囲で決定	暫定目標値 400 $\mu\text{g}/\text{m}^3$	2000.12.15

ノナール：指針値案 41  $\mu\text{g}/\text{m}^3$ (0.07ppm)

注：1 ppm=1000ppb